

会議録

会議名	第4回米原市地域福祉計画推進会議
開催日時	平成29年9月14日(木) 午後7時から午後8時15分まで
開催場所	米原市役所 山東庁舎別館2階 会議室2AB
公開・非公開	公開
傍聴人	なし
出席者	出席委員：14人 空閑委員、阿藤委員、永田委員、棚池委員、高木委員、森委員、西秋委員、吉野委員、樋口委員、伊藤委員、福永委員、振角委員、北森委員、江川委員 欠席委員：1人 中村委員
	事務局等：12人 市：千種健康福祉部長、堤次長、高木課長補佐、平山課長補佐、西村主幹、亀山主任 市社会福祉協議会：田中地域福祉課長、村山課長補佐、中川、川瀬、藤谷(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 荒井
議題	(1) 第2次まいばら福祉のまちづくり計画策定について (2) 「第2次まいばら福祉のまちづくり計画」策定のためのアンケート調査(案)について
結論	・事務局案のとおり、第2次まいばら福祉のまちづくり計画の策定を進める。 ・市民にとって分かりやすい、また回答してもらいやすい調査票を作成し、アンケート調査を実施する。
事務局あいさつ 皆さん、こんばんは。定刻となりましたので、ただいまから第4回米原市地域福祉計画推進会議を始めます。本日、中村委員から欠席という連絡をいただいています。本日、委員15人中14人の委員の御出席をいただいていますので、会議は成立しております。本日は地域福祉計画の策定ということで、今年と来年の2か年にわたって策定させていただくこととなりますが、ジャパン総研の支援をお借りしながら策定に取り組んでいきたいと思っていますので、同席いただいていることを御報告させていただきます。後程アンケートの調査についても説明をしていただきます。会議の終了時刻は午後8時15分頃を予定しています。早速ですが、西秋会長より御挨拶をお願いいたします。	
会長あいさつ 9月中旬に入り、朝夕しのぎやすくなってまいりました。しかし、台風18号が本土を狙っており注意が必要です。本日、4回目の地域福祉推進会議を開催いたします。前回は5月に会議がありまして、まいばら福祉のまちづくり計画の中間評価を御承認いただき、その後に、第2次まちづくり福祉計画について、一部討論を行いました。本日は第	

2次まちづくり計画の継続審議となります。その後、アンケート調査を提案いただき、御協議いただきますが、限られた時間ですので、できるだけ有意義な時間で御議論いただきたいことをお願いして、挨拶とします。

議事

(1) 第2次まいばら福祉のまちづくり計画策定について

会 長 それでは議事に入ります。第2次まちづくり計画の策定について、前回に続いて継続審議になりますが、事務局から説明をいただきたいと思います。説明は要点だけ、簡略をお願いします。

事務局 【資料1により説明】

副会長 この内容で進めていただきたいと思います。意見集約をどのような方法で、丁寧にこの作業ができるかが大事です。地域共生社会と国は提唱していて、理念的にはそこを目指していますが、米原市がどうしたいかがとても大事で、その意味ではこの中間評価の議論もこの場でしてきましたが、これもしっかりと反映していかなければならないです。また、今自分たちはどこにいるのか、自分たちの立ち位置をしっかりと見据えてこれからのことを考えていく、そのような作業をしていかなければなりません。すなわち、立ち位置を共有して、向こう5年間の計画策定に取り掛かるということです。現在、大学で私のゼミに所属する学生が実習に行っています。障がい者の支援計画を立てていますが、学生は壮大な支援計画を描こうとします。しかし、私が「この中にAさんはいますか」と聞くと、学生は「あっ」と言います。つまり、Aさんを置き去りにした立派な計画を作ってもあまり意味がありません。地域住民を置き去りにした計画を作ってもそれは意味がありません。自分たちの立ち位置を共有して、地域で暮らす人の声を丁寧に集めていくという作業が大事だと思います。そして、そのことがそのまま計画策定に市民の声を反映させる、市民参加を促しながら計画を作ることになると思います。このようなことを大事にして取り組んでいけたらと思っています。

会 長 他の委員さんから御意見はいかがでしょう。

委 員 福祉座談会について、小学校区単位で1つ、2つの地区を選ぶということですが、モデル地区によく選ばれるのは先進的な取組をしている地域ですが、今回はそうではなく、遅れた地域を引き上げるような座談会にしてほしいと思います。

事務局 是非参考にしたいと思います。遅れた、進んだに関係なく、学校区単位で次のステップを踏み込めればと思います。できれば、全ての学区単位で、みんなで地域の特色を共有する場面になればと考えています。

会 長 他に意見がないようですので、この案件については事務局案のとおり実施するというにしたいと思います。

(2) 「第2次まいばら福祉のまちづくり計画」策定のためのアンケート調査(案)について

会 長 次に(2)「第2次まいばら福祉まちづくり計画」策定のためのアンケート調査(案)について、事務局から説明をお願いします。

事務局 【資料2により説明】

会 長 アンケートについて御説明いただきましたが、アンケートは、文言や表示の些細な違いで結果が相当変わります。いろいろ検討いただきたいと思います。

副会長 11月中に実施ということですが、調査票自体の確定はいつになりますか。これからの予定をはっきりさせておいた方がいいと思います。アンケートを一度自分たちでやってみると、どのくらい時間がかかるか分かりますし、回答する側として読んでみると分かりにくかったり、答えづらかったりするところが出てきますので、一度皆さんでもやってみてはいかがでしょうか。

事務局 本日の会議が終了してから1、2週間程度、御意見を聞く期間を設け、調査票に反映したいと思います。

副会長 回答する側として、答えにくいところがあれば教えていただきたいです。回収率を上げたいですが、文字で黒いアンケート用紙は敬遠されますし、漢字が必要以上に多いものも同様です。白いアンケート用紙が一番で、バランスや字体もポイントになります。答えようかな、と思ってもらえるようなアンケート調査票を考えてもらいたいです。アンケートに協力する意味があると分かり、これに答えることにより、これからの子どもや生活者に良い影響を与えるんだという機運や、みんなで協力しようという仕掛け、促しが必要です。

会 長 問の29の選択肢で言われている名前というのは、個人を指しているのではなく、名称を聞いているようですね。

委 員 回収率は前回47.7パーセントで、今回は50パーセントを目標とするようですが、せめて60パーセントで、これは過半数の意見であると言えるように目標をそれくらいにしてもらいたいです。高齢化社会の中で大変なこともあるが、うまく説明していただき、これが市民全体の意見と言えるようなアンケートにしてもらいたいと思います。

委 員 2、3ページの「高齢者、障がい者、子ども・子育て家庭」とありますが、当事者でないと分からないのではないのでしょうか。想像で書く人もいるかもしれません。今までのアンケートでも「そんなんわからんやろ」というような質問が必ずあり、どうでもいい質問なのかと気になります。また、市内には外国人の方がたくさんおられますが、そのような方の意見はどう集めるのでしょうか。

事務局 回収率を60パーセントにしてほしいという御意見については、広報で周知しながら、アンケートを発送して一週間経ってからお礼状兼督促状を送りたいと思います。また、「当事者でないと分からない」という設問については、それぞれの立場に立って答えていただくことになります。高齢者、障がい者、子育て家庭の立場を第三者の視点で考えてみて、このような取組や環境があるので住みやすいか、住みにくいかということ、市民の皆さんに考えていただくことが大事だと考え

ています。その結果を問 11-4 で、理由をしっかりと聞くことで当事者の方にどのような取組が求められているかを、第三者の視点として、住みやすさの理由を把握して、取組や周知・啓発の方法などを検討する際にも活用できればと考えています。外国人の意向など、アンケートを補完する部分としては、座談会や担い手アンケートを使い、地域によって課題があるところは民生委員に頼んだりして、個別の聞き取りで反映できればと考えています。アンケートでは反映されなくても、座談会等で拾い上げられればと思います。

委員 大きい項目の「4 地域活動・ボランティア活動」で、自治会の取組について、今十分なのか、何が必要なのかと、必要な取組を聞いてからの方がいいのではないのでしょうか。また、問 29「あなたの住んでいる地域の民生委員・児童委員を知っていますか」という問いで、名前を知っているのかという問いかと私は思いましたが、内容は「制度を知っているか」ということで、それならば「制度」という言葉を入れた方がいいと思います。問 36 では、もう少し具体的に「子育て、高齢者、障がい者にはこのようなサービスがありますが、知っていますか、利用したいですか」と、具体的に質問した方が答えやすいと思います。

事務局 問 20 に、選択肢として 11 番までありますが、住民自治活動だけ、前置きの設問を設けるように検討したいと思います。問 29 では確かに「民生委員の名前をご存知か」と誤解されそうですので、「制度をご存知ですか」と入れようと思います。問 36 では、具体的なサービスをいくつか例として挙げるよう検討させていただきます。

会長 問 31 や問 34 では、名前ではなく、制度を聞いていますので、そのように改めていただきたいと思います。

委員 大きい項目の 2 の「住みやすいとお考えですか」という問いで、住みやすい理由は選択肢がありますが、住みにくいと思っているところが出てこないです。住みやすさを追及する前に住みにくさをどうやって解消するかが大事ですので、そのあたりが出てくるような内容を入れればいいと思います。また、最後の方の「地域福祉について」で、問 36 では、何かを充実する時にマンパワーが必要になりますが、そこに関する選択肢がありません。「質の向上を図る」と書いてありますが、「向上を図る」前に人手がないと言われているのが正直な現状で、そのことが書かれていませんので、マンパワーをどうするかについてももう少し踏み込めないかと思いました。このアンケートは無作為抽出なので、要支援・要介護の方の家にも行くと思います。そのような方や独居の方の意見を反映させることが大事だと思いますので、そのような方への働きかけをしてもらい、周知してほしいと思います。

事務局 「子育てしにくい理由」の課題となるような項目についても、新しく設問を設けるか、選択肢で対応するかは再度検討します。関連計画として、子ども・子育て計画があり、そちらの策定時のアンケートでも同様のことを聞いているかもしれ

ませんので、そちらの調査結果も踏まえながら、子育てのしにくさや、高齢者・障がい者に対する住みにくさについても把握できるように検討したいと思います。マンパワーについては、直接、地域活動への参加意向は聞いていますが、人手不足という課題を直接聞くような設問は今回設けていません。関連する設問として、地域活動への参加意向の設問もあり、それと絡めながら聞き方の調整を行い、マンパワーに対する課題も把握できる設問も追加するように検討したいと思います。要介護・要支援の方の御意見も回収できるように、ケアマネジャーへアンケート実施の周知を図るなど、工夫しながら進めたいと思います。

委員 最初の質問で男女を聞いていますが、人権について叫ばれている昨今、男か女かを答えたくない人がいるかもしれないということを踏まえながら書けないものでしょうか。また、差別解消法などの法律について、聞くのであればルビを打ってほしいです。併せて、差別解消法について聞いているところがありますが、「平成25年6月に制定された」というのは過去のことなので、せめて「平成28年4月から動きだした」ということだけは伝えてほしいと思います。もし、介護者や関係者が読み合いながら回答してくれるとしたら、書きたい人にとっては間が狭いので、もう少し工夫してもらえるとありがたいです。

会長 性別については、先日、新聞に「性別を書きたくない人がかなりいる」と出ていました。アンケートは別の考え方があるのかもしれませんが、どうでしょうか。

事務局 性別については、市の人権の取組を進めている担当課が方向性を持っていると思いますので、そちらと調整したいと思います。また、差別解消法について聞くのであれば、ルビをふってほしいということですが、全ての設問にルビをふると文字数が増えて調査票が黒っぽくなりますが、できるだけルビをふるようにしたいと思います。全体のレイアウト調整を行いながら、ルビの対応を行います。設問間の空白についても、回答しやすさ、見やすさの配慮をしていきたいと思っています。差別解消法については「28年4月から施行された」と、注釈を修正します。

委員 このアンケートが福祉のまちづくり計画の最上位になると聞くと、どれだけ聞けるのかが本質です。そうであれば、合理的配慮も含め、最大12ページになるのかなと思います。前回47.7パーセントの回収率ですので、今回は目標が50パーセントとなるのでしょうか、2000人が対象で、その50パーセントの1,000人ということは、市民の30分の1の意見が反映されることになるということ意識しておく必要があります。その際、2,000人という根拠はどこにあるのか、市民の声を聞こうという努力の根拠を知っておかなければならないので、2,000人の根拠を教えてください。無作為抽出とはいえ、合理的配慮をすると作為的になってしまいますが、視覚障がいの方には音声ガイダンスの対応を考える必要があります。また、アンケートに丸をつける際に、いくつ丸をつけるか、選べるだけ選んだ方がいいのではないのでしょうか。

事務局 2,000人の根拠について、一般的に幅広くアンケート調査を実施する時、サンプル

ル数が回収されるアンケートの信頼性に関係してきます。米原市の人口規模に対してほしい2,000人くらいのアンケートを実施して、回収率が50パーセントと仮定するのであれば、十分信頼性の置ける調査結果を得ることができますので、2,000人としています。総合計画に関するアンケートの意識調査も同様に2,000人で実施されています。音声ガイダンスについては改めて検討させていただきます。

副会長 多分いろんなノウハウがあると思います。障がいのある方に、どうアンケートしていくのかは、米原市も障がい者計画を立てているので、方法があると思います。基本は、調査項目はそのままで、どう答えやすいように個別に配慮していくか、情報を集めていただければと思います。

委員 アンケートを送った人、それは無差別で誰に出したか分かりません。そのため、出してない人に督促状を出すなんてありえないです。配慮もないのに出せ、ではだめです。そのような人もいるという意識を持って、調査することが大事です。どう配慮するか考えてもらいたいです。

事務局 丸を付けていただく数が設問によって異なっており、設問によっては「あてはまるものをすべて」と書いてあるものもあります。しかし、重点的に取り組んでいきたいという項目については、優先度をつけて、あえて限られた数で回答してもらおう方が傾向は出やすいという面があります。選択肢を3つ、4つと限定することで、より傾向を把握し、取組に反映できればと思います。

会長 回答率がさらに高く出てくるような形で集約させていただきたいと思います。

事務局 補足ですが、問29の民生委員について、身近に民生委員がおられるので、その方がどなたか知っているかということを探りたいという思いもあって設定しましたが、民生委員の名前となると違和感があるので、会長・副会長と調整して表現を訂正したいと思います。

会長 本日は議論いただきありがとうございました。この後は会長、副会長、事務局で相談して、若干表現が変わる可能性もありますが、分かりやすい、また回答してもらいやすい形で構成したいと思いますので、よろしくお願いします。

その他

事務局 次回の会議は2月上旬頃を予定しています。内容については、アンケート調査の報告書が出来上がりますので、そこから見えてきた課題の把握、また座談会の内容などを協議していただきたいと思います。委員の皆さまには座談会の企画運営にも関わっていただければと思います。また、11月19日の日曜日には、社会福祉大会を文化産業交流会館で開催しますので、是非御参加をお願いします。

会長 以上で本日の議事は予定どおり終了しました。御協力ありがとうございました。

部長 閉会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

先日、9月3日にグリーンパークにおいて、米原市総合防災訓練を実施しました。震度6強の地震を想定し、市民による避難所の運営や、避難所開設訓練をより実

践的なものにしようと実施しました。〇〇委員には直接お越しいただき、御意見やアドバイスを賜りました。この場を借りてお礼申し上げます。今度の3連休も台風が来るかもしれませんが、行政としても風水害対策や防災対策の万全を期して、市民の安心・安全確保に取り組んで参りたいと思います。

これからも皆さまのお力をいただきながら、多様化する福祉に向けて、それぞれが主役で、お互いに支え合いながら取り組んでいきますので、今後とも貴重な御意見を頂戴できればと思います。本日はありがとうございました。

閉 会